



《朝日俳壇入選句》

田の水を落として今日は晩夏なり

柳 二

千枚田施設補修作業

平成十三、十四年、ふるさと水と土ふれあい事業において《作業道（遊歩道）、ふれあい広場、四阿、水車、ぽつとりなど》が整備され、農作業の軽減が図られた。また、都市住民への癒しの供給に「四谷の千枚田」として名を馳せている。

保存会発足の経緯

「我々が汗水垂らして百姓をしているのに街場の連中が日傘をさして遊びに來たり、望遠レンズで狙われたり、堪ったもんじゃあない。我々は見せ物じゃあない。」など、マイナス思考が多く発足は難航した。が、片方、「それぞれの自力では棚田の保全は限界だ、行政の受け皿(補助事業などの導入)としても絶対必要だ。」等々議論百出。何だかんだを経て平成九年、鞍掛山麓千枚田保存会が発足。

保存会は農作業の軽減、棚田の保全継承を視野に「作業道」を要望事項として行政にお願いした結果、冒頭の「ふるさと水と土ふれあい事業」が採択され、各種施設が整備さ

れた。(筆者は平成十一年、町民の主張において「ふるさと、水と土ふれあい事業の完成の暁には全国棚田サミットを招致したい」と語った)

整備された各施設も八年、九年の年月を得て老朽化が激しく、ほつておけない状況にある。四阿は屋根の杉皮が腐り、屋根石もいつ落ちるか心配だし、ベンチもボロボロで遊びに來た人達がストレス解消か、腐食した部分を通ったりしている。水車もすでに十数回落ちたり、なおしたりの連続で、大変な状況にある。

この、状況を行政にも報告し、対策を検討しているものの、ソフト面の費用捻出がこのご時世ではなかなか難しい。現状を放置していても事故にも繋がったら大変なごとと、愛知県新城設楽農水事務所建設課へ再三出向き、実状を懇願した結果、労力奉仕を条件に「愛知県ふるさと指導員活動支援」として資材の供給をしていただけることになった。

七月二十五日、灼熱の太陽の下、保存会と連谷お助け隊総勢二十一名の出役(ボランティア)によりベンチ、階段の補修整備を実施した。



朝八時、老朽化した施設の現状や補修整備に、やつとこぎ着けたこれまでの経緯。また、保存会、お助け隊への奉仕作業要請への配慮。等々、挨拶を交え伝達した。

また、今回の補修(新品交換)はテーブル四基、椅子十三基、階段三十段のみであること、場所、個数等、作業内容を施設に精通した村雲理事の指示の下、班分けを行い、作業を実施した。

ともかく、暑かった。熱中症を回避するために小刻みな休息、水分補給を行う伝令が松下事務局のトランシーバー(あいち森と緑づくり事業調達品)から各班に飛び交う。

休息時、柳二会員がボソッと「こけるほど暑いじゃんかん」はさすが芸術家、妙を得た言葉と納得。

灼熱の中、重い資材(注入材)の運搬、据え付けに若く、活気のある「連谷お助け隊」の働きに保存会員も負けん気になって働いたが、負けた。作業終了。暑かったに、みんなありがとうさま。ベンチも階段もよくなったに、街から來た人もちったあ、喜ぶだらあが、また、頼む奉仕のん...と、林副会長(連谷お助け隊リーダー)独特なカラ

いで締められた。

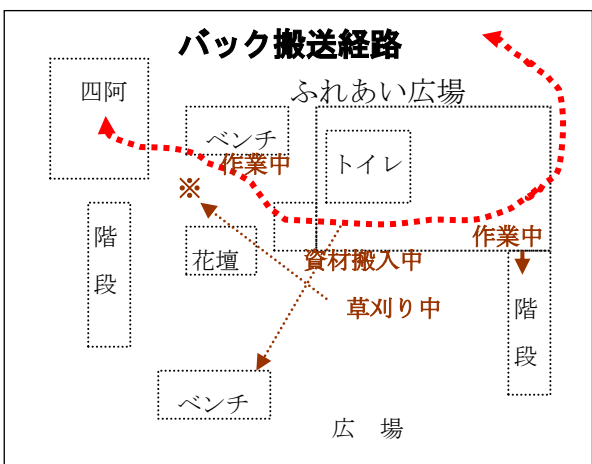


ふいふいもの

当日、九時、「手提げバック」をベンチ、階段補修の最中、目の前を堂々と持って行かれてしまった。

持っていたお人も、バックを開いて見たら汗拭き用の手ぬぐいと小物が少々。ガツカリ顔が目につかぶ。なんて言うのか、持っていたお人も、側について見逃した我々も、トンマを絵に描いたような情けない出来事に熱中症も吹っ飛ばすほど、皆んな笑い転がってしまった。

また、立派な洋犬(二匹)、を連れ二人連れが遊歩道を颯爽と散策。帰りには、二丁寧に小型犬のウンチを作りたてのベンチの横へ「そつと」置いていってくれた。



咲き誇るホウライジュリ

これぞまさしく《百花繚乱》

千枚田の一角、古宿の古田和男会員の表にホウライジュリが一枝で百七十一の花を咲かせた。筆者は過去に百人の花を確認したが、今回はそれを有に越すギネスものであった。



広域地域づくりワークショップ

豊橋市は母なる川「豊川」の水を貴重な資源として日常の生活や産業に活用してきた。豊橋を中心とする東三河はこの「豊川」を通じて古くから深く結びつき、発展してきた地域である。「豊川」の水源の地である奥三河では過疎化や高齢化が進んでいる。これまでのように東三河が一体的に発展するには、豊橋が光り輝くことが必要である。

その、趣旨を果たすべき役割「東三河のなかで今私たちができること」は何かを考えるワークショップ

納涼盆踊り大会

①水源地域との共生を考えよう ②地域資源を発掘し魅力を発信しようをテーマに延べ八回開催される。その一環として八月七日、「水源地域を見て、聞いて」を題材に四谷の千枚田を訪れた。参加者は三遠南信サミットE、豊橋の専門委員を務めた小山舜二から千枚田の役割「水源の涵養、生物多様性、文化、自然、村づくり」などを見聞した。①・②の共通ワークショップの成果発表会が十一月六日、豊橋市役所講堂で行われる。

納涼盆踊り大会

八月七日(土)、連谷公民館主催の盆踊り大会が連谷小学校校庭で行われた。唄はレコードでなく、音頭出しのぼたもち音頭(地唄)に踊り手が合いの手を入れる昔風情さながらの盆踊りに伝承文化を感じた。



生放送

八月七日、十時からFM豊橋のスタジオで鳳来寺山自然科学博物館夏休み特集「豊川の自然・遊び、四谷の千枚田」をテーマに生放送した。Dは地元(新城市)の「もえもえ」ちゃん、方言は文化だ！と生粋？の三河弁で番組を盛り上げた。(舜)

景観環境整備

保存会はCOP10関連、アストラゼネカ社ボランティア活動などの受け入れ準備と都市住民のオアシスとして大きな役割を担う四谷の千枚田の景観環境整備を「あいち森と緑づくり事業」を活用して九月五日に実施する。

COP10 関連情報

- 八月二十八日、鳳来寺山自然科学博物館主催「秋の棚田と生きものたち」
- 八月二十九日、愛知県自然観察連絡協議会奥三河支部(奥三河自然保護協会)主催「夏の千枚田を観察しよう」
- 十月十八日、ドイツ議員団(COP9 開催国)千枚田視察
- 十月二十二日、東海農政局主催千枚田視察(公式エクスカーション) 世界各国公募

行 平成二十二年八月十五日
鞍掛山麓千枚田保存会
発 文 責 小山舜二